

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0270201627		
法人名	いかり商事株式会社		
事業所名	グループホームアップルハウス		
所在地	〒036-8076 青森県弘前市境関字亥ノ宮29-1		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年11月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>弘前市では数少ない3ユニットのグループホームです。ユニットそれぞれ入居者様と職員が共に支え合い、楽しく、充実した生活を送っている。職員は入居者様の思いに寄り添い、一人一人誇りや生きがいを大切にしながら、個々のコミュニケーションを重視し、豊かな生活の実現に取り組んでいる。又、職員会議や内部研修を定期的実施し、サービスの質の向上やスキルアップに努めている。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

<p>ホールの天井が高く明るく開放的である。窓からは山や田園の眺望により、自然の風景から季節を感じることができる。入居者、職員の話し声や笑い声がきかれ、明るく楽しい雰囲気を感じる。入居者が住みなれた地域で、安心して暮らせるように、地域との交流を大切にし、また一人ひとりを尊重した個別ケアの実施に努めているほか、内部研修や会議を通して、職員のスキルアップ、サービスの質の向上を目指しているグループホームである。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の見やすい場所へ掲示し管理者、職員が一丸となって理念を追求し、共有する事で実践に繋げている。	ホーム内の見やすく目の付きやすい場所に掲示し、常に意識している。長い文章なので、その中のキーワードを読み解き、会議やカンファレンス時に職員間で共有し実践につなげている。管理者の変更に伴い、今後職員間での見直しを検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人クラブ、中学校、保育園との定期的な交流を通して、地域との繋がりを大切にしている。	老人クラブや地区の行事への参加、中学生の職場体験の受入等のほか、保育園とは、年数回相互に訪問し合い、利用者と園児がねぶた踊りやクリスマス等を楽しんで交流するなど、地域とのつながりを大切に考え、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や市町村に事業所の行事や生活の様子を広報誌に記載、発行し認知症の方の理解を深める機会を作っている。見学や相談にも随時応じるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。町会長、第三者委員、地域包括支援センター、市担当者、家族を交えて情報交換ができるように配慮している。	2ヶ月毎に実施し、利用者やサービスの内容、行事等、取組状況を報告したり、参加者から意見をもらい、その内容を記録し職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情や取り組みを報告し助言、相談をいただいている。運営推進会議にも参加していただき、協力体制を築いている。	介護保険やレセプト請求に係ることなど相談し、アドバイスを受ける。運営推進会議に地域包括支援センター職員から毎回、市役所の介護保険課から年1回出席してもらい、取組状況を報告したり、意見を頂くなど協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、拘束をしないケアの実践に努めている。家族に説明し理解を得て、玄関ドアはタッチ式としている。徘徊のある方は見守りを重視する対応を図っている。	マニュアルの中で身体拘束はしないという方針を明確に記している。職員採用時に指導するほか、外部の研修に参加し伝達講習により、職員間で共有し、スピーチロックも含めて、身体拘束しないケア方法を個別に検討し工夫するなどして取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル作成、外部評価、内部研修にて防止に努めている。又、日頃から職員間でもケアの方法についても話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員会議、カンファレンス等において学習の機会を持ち、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明し、了承を得たうえで契約をしている。又、制度改正がある場合等は、再度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しており、日頃からご意見や要望を受け付けている。苦情があった際は迅速に対応し、外部から助言もいただき、運営に反映させている。	意見箱を玄関に設置しているほか、入居契約時に外部の窓口を画面で説明している。また、入居者からは日常のコミュニケーション場面で、家族からは面会時などに希望や意見、要望がないか、声を掛け聞き取り運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、カンファレンスにて意見を出し合い、話し合う事で運営に反映している。日々の中でも気づきがあれば、管理者に伝え話し合いを持つようにしている。	職員会議やカンファレンスの場で職員から意見を出し合い、管理者が経営者に伝えるようにしている。実際に車イス入居者のために狭くて利用しにくかったトイレを、職員の意見により改装してもらうなど、職員の意見が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を勘案し、給与水準の向上を図っているが、納得は図れていない状況。研修費用に関しては、会社が負担する制度が設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキル向上を図るべく、各種研修を受講できるよう配慮している。又、学んだ事については内部研修にて職員へ周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年までは行事を通して交流を行っていたが、今年は日程が合わず実施できなかったが、継続予定。勉強会については検討課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集し、本人の要望を大切にしている。心配事や相談があった際も傾聴、受容し安心できるように心掛け、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に不安や要望を聞き、プライバシーに配慮し、より良いサービスに繋がるように取り組んでいる。日頃からコミュニケーションを大切にしながら安心してできるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を把握し、安心してサービスが受ける事ができるように努めている。他のサービスが必要と判断した場合は、他職種と連携を図り支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場にて教え合ったり、励まし合ったり、支え合う関係づくりを心掛け、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちに寄り添い、意見を大切にしながら良い関係が構築できるよう心掛けている。遠方の家族や面会できない家族へは、電話連絡やご様子シートで本人の状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人の面会時にはゆっくり過ごしていただけるよう、環境を整えている。家族の協力のもと外泊も行い、馴染みの関係が継続できるように努めている。	家族や友人の面会を面会場所を提供し、歓迎している。また、入居前から利用されている美容院へ家族の協力を得て、行けるよう支援する等、馴染みの人や場所との関係が継続できるような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人のできる事を把握し、余暇活動や行事と一緒に参加している。楽しみを共有する事で孤立せず良好な関係が保てるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても状況に応じて、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望は行動、言動、表情、日頃のコミュニケーション等から把握するように努めている。意思疎通が難しい方はジェスチャー、表情を豊かに接する事で、意向を汲み取る工夫をしている。	特に担当職員が入居者ごとに、日常生活の対話の中で、入居者の思いや希望の把握に努めるほか、意思疎通が困難な方は、表情等からくみ取るよう努め、把握が困難な場合でも本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や、暮らしの中での様子を観察し、安心できる居場所作りを心掛けている。馴染みの家具や小物を置く事で、落ち着く生活の支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活リズムを把握し、バイタルサインを見逃さず、表情、仕草等からその日の心身状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望を聞き取り、他職種と情報共有を図り、カンファレンスにて課題を抽出する。短期、長期的な介護計画を作成し、チームケアの実現に繋げている。	担当職員が個別にケアチェック表を作成し、それをもとに家族の意向も確認したうえで、多職種が参加してカンファレンスを実施し、3ヶ月毎または病状の変化があるごとに現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、医務ノート、申し送りノート等を活用し職員同士の情報共有に努め、すぐに見直し、実践できるように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズを汲み取り、対応できるように管理者、職員間にて都度話し合いを行い、柔軟な支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや老人クラブ、町内会等地域資源の把握、活用に努め、利用者一人一人の能力が発揮できるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、医師へ情報提供を行い協力体制を図っている。本人、家族共に納得ができる医療支援に努めている。	希望を踏まえ、入居前のかかりつけ医を継続している。認知症の症状によっては、家族に相談のうえ、精神科で適切な認知症治療が受けられるよう支援している。受診の対応は、家族の協力が得られる場合を除いて、グループホームで行うなど必要適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から情報交換を行い、状態の把握に努めている。状態変化の際は相談し、受診の必要性の判断や助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。退院時にも管理者、職員間にて今後の方向性を話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人にとって最善の環境について、家族と話し合いを持っている。終末期ケアについては、施設の体制上困難な状況である。	看取り対応、重度化対応は原則として行っていない。重度化した時の対応、終末期の方針については入居時および適宜、本人または家族へ、グループホームで出来ることと出来ないことを丁寧に説明し理解を得て、特別養護老人ホームへの入居の申し込みを勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習、内部研修、マニュアル作成にて急変時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を実施し、地域協力委員会にも協力を依頼している。又、避難用リュックも準備し、中身も定期的に点検している。	緊急時連絡網を電話付近に掲示している。地域の協力委員の協力を得て、年に2回、日中、夜間を想定した火災避難訓練と、地震を想定した避難訓練を実施している。玄関に防災グッズや非常食の入った非常用持ち出し袋を設置し非常時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を尊重しゆっくりとした口調、目線を合わせる事を心掛けている。プライバシーの保護にも努め、個人情報の取り扱いにも注意している。	プライバシーや入居者の尊厳にかかわる外部の研修に参加し、伝達講習し職員への意識づけや啓発を図っている。職員の言葉遣いが気になった時は、管理者からその職員へ声掛けするなど、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、思いや希望を探り、表出できるよう心掛け、一人一人が自分で決定できるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調や、精神状態に配慮し、個々に合ったペースで生活ができるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を利用していただき、希望に沿った髪形ができるように支援している。又、気候に合った衣服を準備し、おしゃれにも配慮した支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく、安全に食事が摂取できるよう、個々に合わせた食事形態、盛り付けを行っている。食事前に嚥下体操を取り入れ、誤嚥防止に努めている。手伝いも出来る範囲で協力して行っている。	季節のものを出来るだけ盛り込み楽しめるよう、栄養士が献立を作成している。食前に嚥下体操を実施し、誤嚥なく食事できるよう工夫している。配膳などの準備や片付けができる入居者が職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理のもと、栄養バランスに配慮した食事を提供している。水分摂取量は記録し、不足している場合は嗜好品等を提供し、水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、ブラッシングができない利用者は介助にて行っている。うがい時には殺菌作用のある緑茶を使用している。夕食後には義歯洗浄剤を使用し、義歯消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行い、失敗の防止や排泄の自立に努めている。	ケース記録で排泄のチェックを行い、個々の排泄パターンの把握に努めることで、可能な限りオムツを使用せずトイレでの排泄を支援している。失敗しても安易にオムツ使用に切替えることなく、誘導時間を見直すなどして自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や果物などを取り入れ、便秘予防に努めている。又、軽体操も日課として行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	概ね曜日や時間帯は決めざる得ない状況だが、週2~3回のペースで入浴を実施している。又、汚染時等清潔状態に配慮し、入浴日を追加している。	全ての入居者が週に2回入浴できるよう計画し、入浴の支援を行っている。希望により足浴も行っている。また、発汗の多い夏場は、週2回の入浴以外にもシャワー浴などの対応も行っている。希望があれば入浴日以外にも個々に対応する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、体調や希望に応じ休息をしていただいている。照明や室温にも配慮し、安眠できる環境を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルへの保管、医務ノート記入にて、すぐに確認できるようにしている。又、情報共有し服薬後の状態についても観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動、手伝い事、所内外行事にて楽しみや充実感が持てる支援を行っている。家族からの嗜好品で楽しむ時間も設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者からの希望は殆ど聞かれない為、ドライブや外食、買い物の機会を作り外出支援を行っている。家族の協力にて外出する機会も得られている。	グループホームで受診対応を行っている為、受診での外出が多い。そのついでに入居者の希望により、自宅近くをドライブしたり、買い物をしていくこともある。年に1回、お花見やドライブも行っている。職員業務を調整したり家族の協力を得て外出の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はしているが、認知症からの紛失や金銭トラブル防止の観点から、所持者はいない。入居時家族へ説明し、同意を得たうえで施設管理としているのが現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適で安全性のある空間を確保し、車椅子の方でも安心して過ごせるよう室内環境を整えている。ホールには季節感のある飾りつけや、行事の写真を掲示し、心地よく過ごせるよう工夫を行っている。	天井が高く明るく開放的で、居心地が良く過ごせるよう配慮されている。季節行事の写真が廊下に貼ってあり、廊下には所々に椅子が置かれゆったりくつろげる。温度計が置かれたり加湿器で湿度を調整したりと、温度や湿度にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファを置き、思い思いに過ごせる共有スペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を居室に置く事で、自宅の環境に近づけ、落ち着いて過ごせるよう心掛けている。家族の写真なども掲示し、心地よく過ごせる工夫を行っている。	自宅で使い慣れたテレビや衣装ケース、家族の写真、位牌等の持ち込みが自由にでき、入居者、家族と相談しながら本人らしい居室、居心地良い居室となるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、安全な移動ができるようにしている。トイレや浴室はわかりやすい文字で表示している。居室の場所が理解できない方は、家族の了承を得て、名前を大きく掲示する工夫を行っている。		